



林 声

2015



月号



高梁地域を代表するしいたけ生産者の南倫一さんです。しいたけ栽培一筋に半世紀以上の経験と実績を持ち、一言一言に自信としいたけに対する愛情が感じられます。毎日のようにほだ場を見回る姿には頭が下がります。(詳細はP 3に記載)

目 次

新年あいさつ	2	表彰者の紹介(叙勲)	10
岡山・森林列伝(南 倫一さん)	3	森林研究所研究成果発表会のお知らせ	10
普及指導区の情報(真庭支部)	4	技能講習会、イベント情報	11
事業紹介 少花粉スギ等の 普及に向けた取組	5~6	林産物市況	12
コラム 林業研究室	7	事務局からのお知らせ	14
農林高校生の活躍②	8		
岡山県森林・山村多面的 機能発揮対策協議会から紹介	9		



新年のごあいさつ



岡山県林業
改良普及協会
会長
井手 紘一郎

新年あけましておめでとうござ
います。

会員の皆様には、輝かしい新春
をお迎えのこととお慶び申し上げ
ます。

平素から本協会の運営につきま
しては、格別のご支援、ご協力を
賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、林業の世界に足を踏み
入れた若者をテーマとした映画が
上映され話題となりましたが、多
くの若者が森林・林業に関心を持
つきっかけとなるとともに、「森林
の仕事」に携わることにつながる
よう期待しております。

また、平成28年度から8月11日
を「山の日」とし、「山に親しむ機
会を得て、山の恩恵に感謝する。」
として国民の祝日となることが決
定されましたが、誠に意義深いも
のと思っています。

一方で、昨年は予想もつかない
自然災害が他県で多く発生しまし
た。広島県での土砂災害や御嶽山
の噴火など被災された方々に心よ
りお見舞い申し上げます。

さて、岡山県では、森林の整備、
林業・木材産業の振興等を推進し
ていくための基本方針として「21
おかやま森林・林業ビジョン」を
平成21年度に策定しておりますが、
5年が経過し、時代の要請と情勢
の変化に的確に対応するため見直
しが進められております。豊富な
森林資源の循環利用による林業の
成長産業化の実現に向けて、「伐つ
て・使つて・植えて・育てる」と
いう林業のサイクルを循環させる
ため①少花粉スギ等への植え替え
と再造林等による年齢構成の平準
化②県産ヒノキ製材品の海外等へ
の販路拡大③CLT等の新製品・
新技術と木質バイオマス発電によ
る新たな木材需要の創出などを重
点的に進めていくことが検討され
ていると伺っており、当協会とし
ても大変期待しております。

さて、当協会では、会員の皆様
のご協力を頂きながら、林研グル
ーブ交換研修大会を開催したほか、
全国林業研究グループ連絡協議会

事業を活用し、岡山大学農学部
の学生を対象とした間伐体験や高
能林業機械の操作等の林業体験に
取り組ましました。

また、昨年は、2年ぶりに「お
かやま森の大使」募集・選考会を
実施し、新大使を委嘱したところ
であり、今後も森林・林業の大切
さや木材の良さをより広く、県民
の皆様にもPRしてまいることとし
ていきます。

本年も、県・市町村・林業事業
体など関係者間の連携を図りなが
ら、本県の林業経営の改良と林業
技術の普及を図り、林業の振興に
寄与してまいります。

会員の皆様方の一層のご支援ご
協力をお願いいたしますとともに、
それぞれの分野でますますのご活
躍をお祈り申し上げます。新年のごあ
いさつとさせていただきます。

迎春



木材共販日のご案内

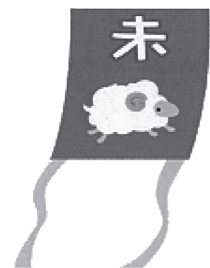
岡山県森林組合連合会



本年もお引き立ての程、宜しくお願ひ申し上げます。

- 1/9 (金) 初市
〈勝山共販所・津山共販所〉
- 1/13 (火) 初市
〈新見共販所〉
- 2/20 (金) 久米郡森林組合林業祭
〈津山共販所〉

◆各共販所とも多くの出材をお待ちしております



岡山・森林列伝

〔高梁普及指導区〕



一 はじめに

今回は、高梁市で長年にわたり原木栽培によるしいたけ生産を続けておられる南倫一さん（82歳）を紹介いたします。



指導林家歴35年の南さん

二 しいたけ栽培のはじまり

南さんは高梁市玉川町増原にお住まいです。昭和32年、当時はまだ薪炭業の盛んな地域でしたが、時代の変化をいち早く感じ、森林資源を生かした新しい産業を目指して周囲に先駆けてしいたけ栽培を始められました。林内ほだ場を



散水施設を導入した明るいほだ場

基本として徐々に規模を拡大し専門化してこられました。

三 経営方針と栽培技術

品種特性を最大に引き出すこと、消費者ニーズに合致した品種・生産方法に対応することを基本方針とされています。

栽培方法についてもいろいろ試してこられました。照度管理、仮伏せの省略、かん水による発生操作、袋掛けなどはその一例です。

照度によるきのこの微妙な変化に着目しアカマツ・広葉樹混交林が最適ほだ場と選定したそうです。現在は松くい虫被害で適地がないことを嘆いておられます。

林内ほだ場には散水設備を導入し水分管理を徹底することで高品質・多収穫を実現してこられました。これによりほだ木を動かす労力を省くことができ大径ほだ木も積極利用ができたそうです。散水の時期や量を工夫し最適な水分管理を見つけて出し、的確な発生操作を行っていきます。手間は掛かりますが自然に任せた栽培方法よりも高品質しいたけの安定生産が可能となり、有利販売につながっています。

また、原木調達にあたっては適期伐採に細心の注意を払っておられます。収量に大きく影響を及ぼすため自ら伐採することを基本的にし、購入原木の場合も伐採時期が確定できないものは避けるようになっています。

四 地域のリーダー

こうした栽培方法に関して、常に地域をリードし、地元生産組合の仲間にとどまらず近隣生産者との交流にも積極的に対応して栽培指導を行ってこられました。

昭和55年には栽培技術の高さから岡山県指導林家となり、地区内はもとより近隣市町村へも出向いての栽培指導など活躍を続けてこられました。

五 研究活動への協力

研究熱心で高品質しいたけの生産を実践し、種菌メーカーと協力して新品種の実証栽培等も手掛け品種登録などへの貢献を通してしいたけ産業の振興にも大きな役割を果たしてこられました。



南さんのこだわりで育てられたしいたけ

六 おわりに

しいたけ栽培一筋に50有余年、今なお活躍される南さんに敬意を表するとともに、その技術が周囲の生産者に継承されていることに対して感謝し、今後も支援していきたいと思えます。

（林業普及指導員 竺原光男）

普及指導区の情報【真庭普及指導区】
「真庭システム（木質資源安定供給事業）」の紹介



一 はじめに

平成24年に始まった「再生可能エネルギー固定価格買取制度」では発電に使う木質バイオマスの種類によって、電力の買取価格が区別されています。

森林経営計画対象森林、保安林等の森林関係法令に基づき生産されたものは間伐材等由来の木質バイオマス（真庭地域では未利用材）、製材等の残材や、開発等の森林関係法令に基づき生産されたものは一般木質バイオマス（真庭地域では一般木材）の分類です。

真庭バイオマス発電事業が本年4月から本格的に始動しますが、



QRコード付きの情報カードを専用機器で読み取る

真庭地域で、QRコード付きの情報カードを荷受地（原木市場・チップ工場・発電所）で読み取り、正確で効率的な証明書の発行や流通管理による安定供給をIT化した真庭システム（木質資源安定供給事業）の運用が始まりましたので、ご紹介いたします。

二 木質資源安定供給協議会

地域林業・木材産業の活性化を図るため、関係者が連携、情報共有を行い、バイオマス発電事業に向けて未利用材をはじめとする木質資源を安定的に供給することを目的として、森林組合・素材生産業者・原木市場・製材業者・チップ業者・発電所等21社が木質資源安定供給協議会を平成25年3月に立ち上げました。

協議会では、平成25年から木質資源の合法・由来証明や木材流通管理の合理化のためにIT化に着手し、山林の伐採計画、原木市場やチップ工場の入荷量等をパソコンに入力してインターネットで共有する真庭システム（木質資源安定供給事業）を完成させました。

三 真庭システム（木質資源安定供給事業）の概要

バイオマス発電事業には、森林

組合等多くの関係者が参画します。このため、関係者間の連携・調整が非常に重要となります。

このため、木質資源安定供給協議会が核となり、真庭システムを活用して、木質資源の①取引（証明書の発行・入出金管理）、②在庫（原料供給量・在庫状況管理）、③物流（運送・配車管理）を総合的に管理します。

①業者・事業地登録

同システムに参加する関係者は業者情報、伐採計画地や所有者情報等の事前登録が必要です。事前登録後に情報カードが発行されます。

②情報カードによる証明書発行

業者名、品目、由来、車番、事業地、所有者等が記録されたQRコード付きの情報カードを出荷者が携行し、荷受地で読み取ること、証明書の自動発行と出荷管理が可能です。

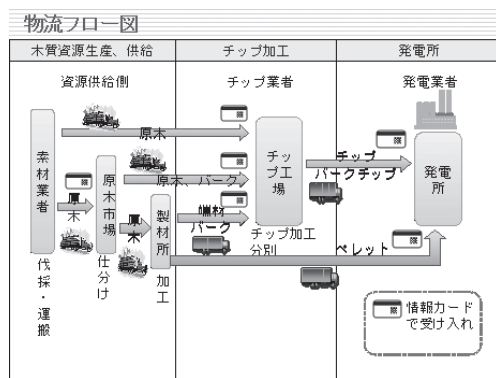
③入出金管理

情報カードと原料の重量等の情報に基づき、仕入れに対する精算が出来ます。なお、立木所有者に対しては未利用材と証明されたものにつき、1tあたり500円が支払われます。

④原材料の流通及び交通管理

チップ工場の出荷予定や原木の

在庫状況、発電所のチップ在庫状況の確認と需給調整、原料の運送トラックの配車管理をシステム上で行います。



真庭システムの物流フローイメージ図

四 おわりに

同システムを利用した発電燃料用の原料の受入れが昨年10月からチップ工場で開始されており、計画では発電所のフル稼働に必要なチップ原料は年間約15万tとされており、このうち約9万tを未利用材で賄うこととなっております。

地域林業活性化のためにも、未利用材をいかに供給できるかが重要で、同システムの積極的な活用が期待されます。

（林業普及指導員 花田智雄）

特集 「少花粉スギ等の普及に 向けた取組について」

一 はじめに

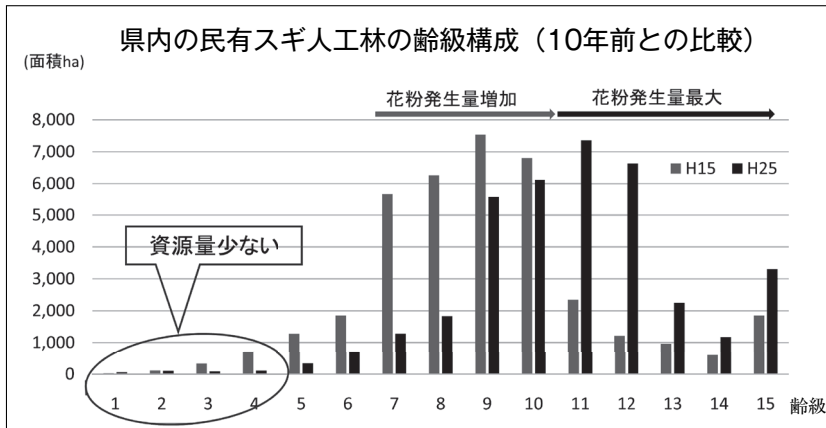
スギ花粉症はスギ花粉によって引き起こされるアレルギー疾患で県民の5人に1人が罹患していると言われております。このため、県では、花粉症の主な原因とされているスギ・ヒノキの花粉を低減させるための取組を行っており、その概要について紹介します。

二 岡山県の森林の現況

まず、岡山県の森林の状況ですが、県内民有林のスギ・ヒノキ等人工林の面積は約17万ha、蓄積は約4千万立方メートルで、資源量は着実に増加しており、同時に花粉量が多くなる高齢林の面積も増加しています。

下のグラフはスギ人工林の年齢別面積（年齢とは樹齢を5年間隔で括ったもの）ですが、花粉を多く発生する50年生以上の高齢林の面積は10年前の約3倍に増加しています。一方、20年生以下の若齢林の面積は極端に少なく、いびつな年齢構成となっているため、花粉量の増加とともに、安定的な木

材供給の面からも課題となっております。このため、伐採時期を迎えた森林を伐採・利用し、再造林には花粉の少ない品種を植えることで、花粉量の低減と年齢構成の平準化を同時に解決しようと考えています。



三 少花粉スギ等

少花粉スギの花粉量は、一般的

なスギに比べて1%以下であり、県森林研究所で管理している少花粉品種はスギ10品種、ヒノキ11品種です。少花粉スギは、国と各都道府県の試験研究機関が連携し、精英樹と呼ばれる生長等に優れた品種の中から再選抜したものです。



県森林研究所の少花粉スギ母樹林

少花粉スギは、母樹林から穂木を採取し、挿し木によって苗木を生産します。このため、母樹と同じ性質を持った苗木を生産することができます。

現在、県森林研究所で生産した採穂園用の親木を民間苗木生産者の方々に供給し、そこから採れる穂木によって苗木の生産を進めているところでは、

一方、本県の民有人工林の約7割を占めるヒノキについては、現在、県森林研究所において少花粉

ヒノキ専用採種園の整備を進めているところでは、

なお、少花粉スギ苗木の生産目標については、「晴れの国おかやま生き活きプラン」において、平成28年度末までの累計で4万5千本の出荷を目指すこととしています。

四 広域的な連携

スギ花粉は風に乗って十数キロから百キロ以上飛散すると言われており、県単独の取組のみならず、県境を越えた対策が必要です。

このため、中国地方知事会において、平成25年11月に「スギ花粉症対策部会」が設置されました。これを受け岡山県が事務局となつて、中国5県の山林種苗担当課長で組織する「少花粉スギ普及推進中国地方連絡会議」を立ち上げました。

昨年5月に、初会合を岡山市内で開き、少花粉スギ生産目標や広域的な苗木の需給量の見通し、苗木の広域的融通など具体的な連携内容について協議を行いました。

また、10月の第2回会議では、知事会の意向により当初生産目標に対して2割増の約18万本の苗木を生産することや平成26年度における中国5県での苗木需給量の把握、少花粉スギモデル林を6箇所

設置すること等について合意されたところ です。



中国地方連絡会議の開催状況 (H26.5.9)

五 少花粉スギ等普及促進事業

県では、少花粉スギの普及定着を図るため、おかやま森づくり県民税を活用した「少花粉スギ等普及促進事業」を今年度から実施しています。

主な事業内容は、①スギ林等の人工林を伐採した跡地に、少花粉スギ等の花粉の少ない品種による造林を行った場合、再造林経費の一部及び下刈経費に対して助成②少花粉スギ等苗木の安定生産に係る実証③少花粉スギの普及を図るためのモデル林整備です。

花粉発生量を低減させるためには、利用期を迎えた森林を伐採

し、少花粉品種等による植栽を行うことが必要ですが、再造林には森林所有者の方に経費負担が発生するため、近年では再造林が減少傾向にあります。このため、再造林に伴う所有者負担を軽減するとともに、植栽後5年程度必要となる下刈りの経費について全額助成することで、伐採・再造林を促進することとしています。

一方、少花粉スギ苗木の生産は始まったばかりであり、今後の需要に対応するためには、安定的な生産体制の構築が不可欠です。加えて再造林を含む林業のトータルコスト低減のため期待されている「コンテナ苗」の生産技術等の確立も重要です。

このため、岡山県山林種苗協同



少花粉スギのコンテナ苗

組合と連携し、苗木の安定的かつ低コストな生産方法の実証に取り組んでいます。

また、少花粉スギの植栽を森林所有者や林業関係者の方へPRするためのモデル林整備も進めています。県森林研究所が育てた苗木により平成25年度末時点で県内4箇所を設置していますが、昨年11月には民間苗木生産者が育てた苗木を初めて活用し、植樹のつどい形式により新たに2箇所設置されました。



植樹のつどい (26.11.10)

1箇所目は、新見市主催で同市哲多町蚊家^{このいえ}地内の市有林において地元保育園児や林業関係者など約90名の参加により開催され、また2箇所目は、真庭市主催で同市^{かみやま}鉄山の市有林において地元中学生

や林業関係者など約80名の参加により開催されました。

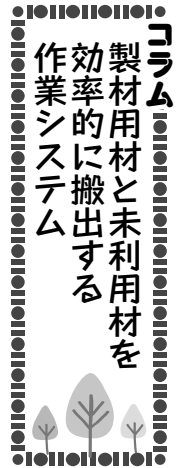
六 今後の取組

県では、平成20年2月に「少花粉スギ・ヒノキ普及推進プラン」を策定し、少花粉スギ等苗木の生産体制整備を進めてきましたが、広域連携の取組やコンテナ苗を活用した低コスト造林など、計画策定時から状況は変化しています。このため、これまでの取組実績を踏まえ、現在の状況に即した計画に見直し、取組を加速することとしています。

これらの取組を通じて、伐つて、使つて、植えて、育てる林業のサイクルを循環させ、地域林業の発展に繋げていきたいと考えています。

今回、紹介させていただいた内容は、県庁治山課のホームページ (<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/58/>) にも情報を掲載していますので、是非ご覧ください。その他、ご不明な点につきましては、県庁治山課又は最寄りの県民局森林企画課・地域森林課にお問い合わせください。

(治山課 造林班)



一 はじめに

林地残材は、全国で年間約2000万m³も発生していると推計されていますが、林内に広く分布し搬出に多大なコストがかかり採算が合わないため、ほとんどが未利用のままとなっています。そこで、既存の林業機械のみを用いて製材用材と未利用材を同時に効率的に搬出する作業システムについて検討しました。

二 調査方法

本調査では、利用される丸太を製材用材に、曲がり材、末口径8(14cm材、搬出可能な端材(根元部分)をバイオマスに、それ以外の部位を林地残材に定義しました。調査地は、土場が広い施業地(A試験区)と土場が狭い施業地(B試験区)としました。製材用材とバイオマスは用途が異なるため、材を仕分けする必要があります。一般的には土場で別々に集積されます。そこで、各試験区において、造材後、これらの材を作業道で仕分け作業を行うシステム(グラップル

で仕分け・積込、フォワーダで搬出、グラップルで荷下ろし)と、土場まで搬出後、土場で仕分け作業を行うシステム(グラップルで積込、フォワーダで搬出、グラップルで荷下ろし、仕分け)で搬出作業の比較をしました。

三 搬出可能な材積量

立木の形状や現場の状況が異なるため一概には言えませんが、各試験区での搬出材積割合結果から、立木材積の約45%を製材用材として、3/4割をバイオマスとして搬出することができ、2/3割が林地残材となることがわかりました。

四 効率的な仕分け場所および未利用材搬出の可能性

造材場所から土場までの搬出作業および仕分け作業の生産性を各試験区と比較しました

作業内容 (m ³ /時)	A試験区		B試験区		
	作業道システム	土場システム	作業道システム	土場システム	
集材工程	6.21	6.97	5.46	4.21	
道仕分け	16.21	-	20.31	-	
内訳	積込	19.47	18.49	16.76	12.48
	搬出	20.83	19.92	13.49	11.32
土場仕分け	-	25.57	-	14.51	

表1 集材工程の生産性

(表1)。その結果、土場が広い施業地では、土場での仕分け作業が効率的であり、土場が狭い施業地では、作業道での仕分け作業が効率的であることがわかりました。

今回の調査で得られた生産性を用いて生産コストを試算し、搬出材積割合を製材用材6割、バイオマス4割とし、製材用材価格は129,000円/立方メートル、バイオマス価格は4,000円/トンとし、重量から材積への変換は1.2立方メートル/トンとした条件で収支試算を行いました(図2・3)。

A試験区、B試験区ともに直接木寄では2,000円/立方メートルのプラスになりました。ウインチ木寄では、A試験区は搬出距離500mまではプラスになり、B試験区では作業道システムが搬出距離300mまではプラスになりました。このことから、製材用材とバイオマスを搬出する場合、市場を介せず土場売りを行えば、直接木寄で収支はプラスになり、搬出距離によってはウインチ木寄を行っても収支がプラスになると考えられました。また、搬出距離が短いほど収支が良くなることから、全ての施業地でバイオマス搬出を行うのではなく、搬出距離に応じてバイオマス搬出を行うことも必要と考えられました。

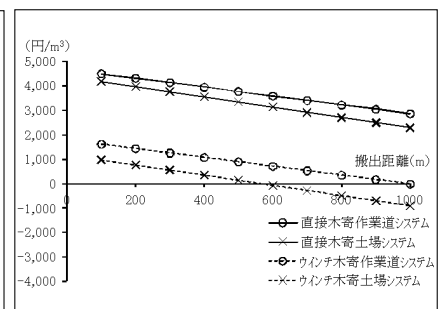


図2 収支試算 (A試験区)

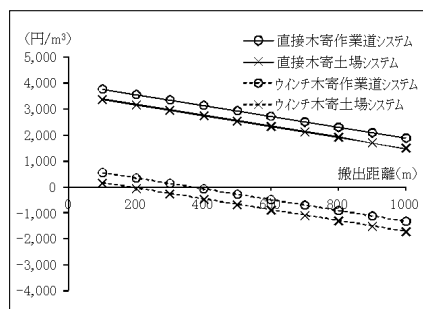


図3 収支試算 (B試験区)

要と考えられました。以上のことから、バイオマス搬出には、施業地の土場の広さやフォワーダによる搬出距離に応じて作業計画を立てることが重要であると考えられました。

(森林研究所 林業研究室
研究員 片桐智之)

「廃棄オガクズの再利用による心の循環ステージ作り」
岡山県立高梁城南高等学校

一 はじめに

岡山県立高梁城南高等学校は電気科、デザイン科、環境科学科、総合情報科の4学科からなる学科総合型高校です。環境科学科では授業の一環で、年間570粒のヒラタケ菌床栽培を行っています。

ここで廃棄されるオガクズの有効利用を目的に、平成24年度から3年間、岡山県の産業廃棄物処理税を財源とするスーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業の指定を受け、研究を続け、最終目標としては、校内にペレットストーブを導入した地域との交流温室や広場を整備することで、『資源循環による地域の心の循環』を目指しています。

二 研究の内容

①三和土(たたき)の研究

三和土は、日本の伝統的左官工法で、三種類の材料を混ぜ合わせ、練ってたたき固めたものです。現存している構造物は百年以上もの間、荒波や風雪などに耐えています。その配合や施工は職

人の勘や経験に委ねられ、地域ごとに材料の選択も多様です。

そこで、この研究ではまず生徒とともに廃棄オガクズを混入した様々な配合の三和土サンプルを作り、最善の配合を探りました。その結果、マサ土・廃棄オガクズ・消石灰 5・1・4の配合が最も高い強度を示したため、この配合によって交流温室の床面三和土打ち施工を行いました。

床面三和土施工にあたっては、最初にデザイン・施工性を考慮して、耐久性に富むウリン材(東南アジア原産の非常に堅い材)で床面施工する範囲を格子状に区切り、寸法の足りない材料については、継ぎ手加工を採用するようになりました。格子状の区画完成後、三和土の施工を行いました。

施工を行った生徒は、三和土施工の手間や難しさを実感し、昔の職人の知恵や大変さを知るとともに、大きな達成感を得たようです。

②廃棄オガクズペレットの研究



廃棄オガクズを使ったペレットは様々な実験の結果から良好なものが製造できましたが、燃焼後にガラス質の不純物がペレットストーブに残ることがわかりました。このため、追加実験をして、廃棄オガクズ一般のオガクズ 3・7であれば、不純物も発生せず安定した燃焼が続くことがわかり、現在、この方法で廃棄オガクズペレットを製造しています。

③校外学習について

校外学習については、岡山県農林水産総合センター森林研究所の方々と森林・林業・木材産業について、実習を通して効果的な環境教育の研究を重ねています。



森林研究所を訪問しての校外実習をはじめ、平成25年からは、真庭市清谷「稲荷平のヒノキ林」を2年生が見学し、講師として地元在住の井原さんと山主の戸田さんより森林から林業経営までの幅広い

内容の説明をいただきました。

さらには、富原婦人森林研究クラブのみなさんとの交流会も行い、薬草カレーを作ったり、クラブが取り組まれた里山宝探しゼミナールの苦労談や、くず新芽ブレンド茶開発の経緯などのお話を伺いました。

参加した生徒たちは、日常の学校生活では体験できない多くのことを学び、

また、世代を超えた暖かいふれあいを通して、心に残る一日であったことを多く感想に綴っていました。



三 おわりに

スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業の指定は今年度で終了しますが、完成したばかりの交流温室を「心の循環」のステージとして今後も発展させて行き、地域の皆さんとの交流の場として確立したいと考えています。

(岡山県立高梁城南高等学校 環境科学科)

「森林・山村多面的機能
発揮対策交付金」
について



里山林は、居住地近くに広がり、薪炭用材の伐採、落葉の採取等を通じて地域住民に継続的に利用されることにより、維持・管理されてきた森林です。

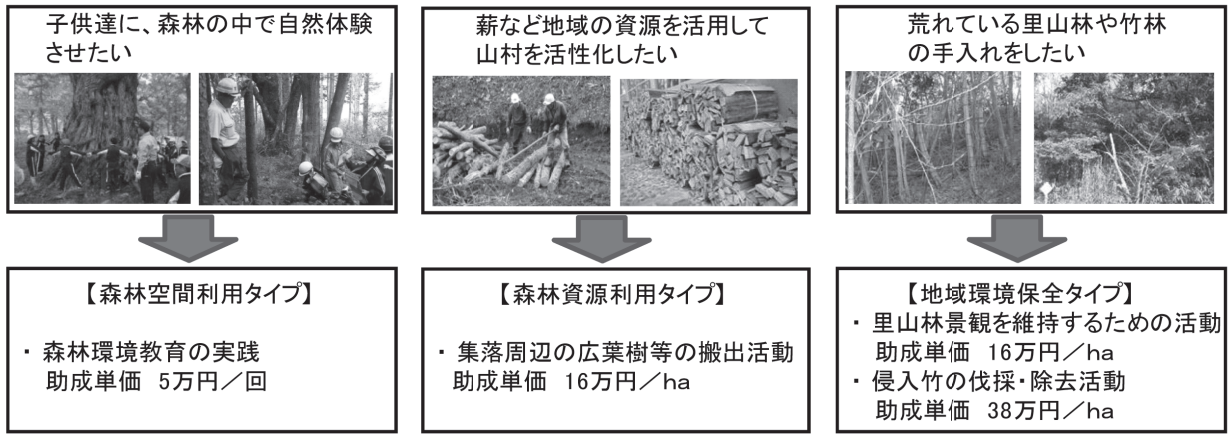
しかし、このような里山林は、昭和30年代の石油・ガスなど化石燃料の普及、化学肥料の普及等により地域住民との関係が希薄になり、侵入竹などによる荒廃が進んでいます。

こうした中、林野庁において、地域住民、森林所有者、自伐林家等が協力して行う、里山林の保全管理や森林資源を利用するための活動に対して、一定の費用が助成される制度が平成25年度に創設されています。

一 活動メニュー

主な内容は次の3タイプとなっています。

このほか、活動を実施するために必要な機材及び資材の購入・設置に対しても、必要額の2分の1が助成されます。



二 対象となる組織（活動組織）

活動組織の構成員は、地域住民、森林所有者等地域の実情に応じた方（3名以上）で構成してください。

地域の自治会、NPO法人、森林組合等が単独で実施又はいち構成員となることも可能ですが、活動組織としての規約の作成や区分管理が必要となります。

また、活動組織の事務所は、活動する森林と同一都道府県内あることが必要です。

三 対象となる森林

森林経営計画（及び森林施業計画）が策定されていない森林であって、活動組織と森林所有者とで利用協定を締結している森林です。

ただし、森林空間利用タイプを実施する場合は、森林経営計画等を策定している森林であっても、対象とすることができる場合があります。

四 主な留意点

3年間継続した活動を実施することと、事業終了後においても継続した活動を行うことが必要となっています。

五 活動計画書等

活動組織名、所在地、取組の背景及び概要、3年間の活動計画、年度別の取組内容、計画図、委託内容等を記載した計画書を作成する必要があります。

また、年度毎の事業完了時には、活動記録や金銭出納簿等交付金の使途を整理した実績報告書の提出が求められます。

六 その他

国の支援期間は、平成25年度から28年度までの4年間ですが、現時点における助成期間の上限は3年間とされています。

七 お問い合わせ

具体的な内容や手続き等については、本交付金の交付窓口「岡山県森林・山村多面的機能発揮対策協議会（事務局 一般社団法人岡山県森林協会）」もしくは、お近くの県民局森林企画課、地域森林課、市町村の担当課へお問い合わせください。

<http://www.pref.okayama.jp/page/351087.html>
(林政課森林保全班)

平成26年秋の叙勲受章者の紹介

「旭日小綬章」



豆原 直行 氏
まめはら なおゆき

平成26年11月3日付けで秋の叙勲受章者が発表され、長年、林業・木材産業の振興にご尽力された院庄林業株式会社相談役の豆原直行氏が受章されました。

伝達式は11月11日に農林水産省で行われ、その後、皇居「豊明殿」で天皇陛下に拝謁されました。

豆原氏は、(一社)岡山県木材組合連合会長、日本集成材工業協同組合副理事長など多くの役職を永く勤められ、県産材並びに国産材の振興にご尽力されました。

これまで、(一社)岡山県木材組合連合会長として県産材利用を促進するため、平成22年の「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の施行の際に

は、公共建築物における県産材等利用方針の作成を県内地方公共団体に働きかけ、県下全市町村において利用方針の作成を実現し、公共建築物の木造・木質化の推進に寄与されました。また、平成24年には「県産材販路推進協議会」を設立し、海外への販路拡大に取り組み、韓国企業への商談を働きかけ、県産材の長期輸出契約が実現するなど、県産材の需要拡大にご尽力されました。

また、院庄林業(株)では無垢材芯持ち無背割り材の乾燥技術の開発や集成材生産技術の向上などの先導的な取り組みにより、木材の信頼性の確保に大きく貢献され、自社を国以内有数の国産材の製材会社に成長させられました。さらに、集成材メーカー初のISO9001認証の取得や自社工場の所要電力の一部を賄う太陽光発電パネルを整備するなど、環境保全対策にも取り組まれました。

心からお祝い申し上げます。
(林政課 普及指導班)

★お知らせ★

平成26年度 森林研究所研究成果発表会の開催

岡山県農林水産総合センター森林研究所では、これまで取り組んできた研究成果を関係業界や一般県民の皆様に分かりやすく紹介し、理解と関心を深めてもらうため、次のとおり研究成果発表会を開催します。また、研究成果発表に先立ち、西栗倉村役場の小椋一成 氏に「百年の森への挑戦」と題してご講演いただきますので皆様の参加をお待ちしています。

- 一 開催日時
平成27年2月10日(火)
13時から15時
- 二 場所
真庭市鍋屋17の1
「久世エスパスセンター」
会議室・ギャラリ
- 三 内容
●講演
『百年の森林への挑戦』
西栗倉村産業観光課
小椋一成 課長補佐

●研究成果発表

- ①「マツタケ菌糸を活性化するフラボノイド」
林業研究室 藤原専門研究員
- ②「ヒノキの「良さ」に関する再考」
木材加工研究室 野上研究員

●ポスター発表
研究成果をわかりやすく研究員が解説いたします。



参加ご希望の方は森林研究所まで電話、FAX、メールにてご連絡いたします。

〒709-14335
勝田郡勝央町植月中1001
農林水産総合センター森林研究所
電話 0868-38-3151
FAX 0868-38-3152
メール ringyo@prefokayama.lg.jp

技能講習会の開催(2~3月)

※詳細は申込先にお問い合わせください。

名称	会場	日程	申込・問合せ先
小型移動式クレーン運転	岡山	3月12, 13日	(社)岡山県労働基準協会 TEL (086) 225-3571
	津山	2月25, 26日	
玉掛け(未経験者対象)	岡山	2月12, 13日 3月5, 6日	
	玉野	2月16, 17日	
	津山	2月23, 24日	
移動式クレーン運転士		3月2日	中国四国安全衛生技術センター TEL (084) 954-4661
はい作業主任者	岡山	2月25, 26日	陸上貨物運送事業労働災害防止協会 岡山県支部 TEL (086) 234-1332

森林・林業関係イベント参加募集

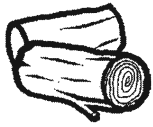
開催日時	場所	行事名称・内容	問合せ・申込先等
1.24(土) 9:30~集合 10:00~開始	真備美しい森 (倉敷市真備町市場地内)	竹林整備(竹チップ化)、 栗植樹地草刈り、遊歩道整備 (小雨決行)	倉敷地域森づくりの会 TEL:0866-92-5600
2.10(火) 13:00~受付 13:30~17:00	メルパルク岡山 (岡山県岡山市北区桑田町)	「和の住まいのすすめ」 リレーシンポジウム	(一社)岡山県建築士会
2.14(土) 9:30~集合 10:00~開始	総社市下倉地内	森林整備(除伐・枝打) しいたけ植菌、採取 (小雨決行)	倉敷地域森づくりの会 TEL:0866-92-5600
2.14(土)	高梁美しい森 (高梁市松山地内)	マツ林整備事業 枯死木の伐採、腐葉土掻き撤出、発根 剤の散布による「マツタケ林再生」作業 (詳細は、問合せ先まで)	NPO法人フォレストフォーピープル岡山 〒716-0038 高梁市浜町 1285-1 TEL:0866-22-1000
2.14(土)	共生の森柵原 (久米郡美咲町書副地内)	保育のつどい (間伐、キノコ植菌体験)	久米郡森林組合 TEL:0868-66-0053




高性能大型林業機械から電動工具まで何でも揃う

美津吉商事株式会社

津山市一方 194 〒708-0883 TEL(0868)23-2255
<http://www.mitsuyoshi.com/>



林産物市況



木 材 (12月19日)

出荷材積 約 1,200 m³

単位：千円/m³

樹種	長さ	径 級	直 材	小曲り	樹種	長さ	径 級	直 材	小曲り	杉概況	全体的に横這い
杉	3m	1 4 ~ 1 6	12	8.5	檜	3m	1 4 ~ 1 6	17.5	15.5	小径材	横這い
		1 8 ~ 2 0	12	8.5			1 8 ~ 2 0	17.5	15	柱 材	横這い
		2 2 ~ 2 8	12	10			2 2 上	16.5	14	中目材	横這い
	4m	1 8 ~ 2 2	11.5	10 ~		4m	1 6 ~ 1 8	18	9 ~	松概況	全体的に横這い
		2 4 ~ 2 8	11.5	10 ~			2 0 ~ 2 2	15	14	小径材	横這い
		6m	1 6 ~ 1 8	15			10	2 4 ~ 2 8	15	14	柱 材
松	3m	1 8 ~ 2 2	14	8	6m	1 4 ~ 1 6	30	25	中目材	横這い	
	4m	1 8 ~ 2 2	16	10		1 8 ~ 2 0	30	25	松概況	横這い	

資料：岡山県森連勝山木材共販所市況速報、価格は中値。

製 材 (12月)

樹 種	寸 法	等級	区分	安値～高値	備考
ス ギ	正角 3m 10.5cm 角	特 等	K	55,000 ~ 60,000	
	正角 3m 12cm 角	特 等	K	55,000 ~ 58,000	
ヒノキ	正角 3m 10.5cm 角	特 等	K	60,000 ~ 65,000	
	正角 3m 12cm 角	特 等	K	55,000 ~ 60,000	
マ ツ	平角 4m 10.5 ~ 12cm × 15 ~ 18cm	一 等	K	65,000	
米マツ	正角 3m, 4m 10.5cm 角	特 等	G	56,000	
	平角 3m, 4m 10.5 × 15 ~ 21cm	特 等	G	58,000 ~	
北洋アカマツ	タルキ 4m 3.8cm 角	特 等	K	70,000 ~ 75,000	
ホワイトウッド	間柱 3m 2.7cm × 10.5cm	特 等	K	56,000 ~ 58,000	国内挽

注1：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。

注2：区分のKとは人工乾燥材、Gとは未乾燥材のこと。

FOREST INSURANCE

森林
国営保険



加入できる森林は？ 人の手が加わった森林
加入期間は？ 1年単位で何年でも！
保険金がでるのは？

火災、風害、水害、雪害、干害等気象災の損害があったとき、森林所有者に支払われます。

岡山県では過去5年間で7千万円以上の保険金が支払われました。

ご契約のモデルケース (1ha あたり)

樹 種…ヒノキ 契約時林齢…1年
保険期間…5年 保険金額…最大188万円
一括払いだと 21,225 円 (5年間計)

樹 種…ヒノキ 契約時林齢…26年
保険期間…5年 保険金額…最大299万円
一括払いだと 37,375 円 (5年間計)

1ヶ月あたり
約 350 円

わずか缶ビール
1本分



1ヶ月あたり
約 620 円

わずかラーメン
1杯分



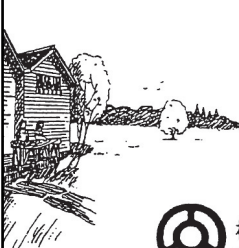
○保険金額を50%にすることにより、保険料を50%にすることも出来ます。

○条件によって契約金額が変わってきます。

○ご相談は、最寄りの森林組合、県民局(森林企画課)・地域事務所(地域森林課)の窓口へどうぞ。

岡山県農林水産部治山課

電話番号 086(226)7455 (直通)



緑あふれる環境づくり

株式会社 山都屋

本社 〒703-8273 岡山市中区門田文化町2丁目11番51号
 TEL (086) 272-2161 FAX (086) 272-2142
 http://www.yamatoya-net.com
 大阪営業所 津山営業所 水島営業所

優良種菌で確かな収穫

もりのたねごま

◆シイタケ、ナメコ、ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。

製造 総発売元 **森産業株式会社**

岡山営業所 岡山市北区辰巳46-104
 TEL 岡山(086)805-7033(代)

サンケイの松くい虫防除薬剤

多目的使用（空中散布・地上散布）ができる

スミパイン[®] 乳剤・MC
 積れる松枯れ防止用散布剤

モリエート[®] SC
 ナラ枯れ予防用樹幹注入剤

ウッドキング[®] SP

伐倒木用くん蒸処理剤

キルパー[®] 40
 伐倒駆除剤

パインサイド[®] S油剤D
 樹幹注入剤

グリーンガード[®] ファミリー

お問い合わせは最寄りの県森連・森林組合へ

サンケイ化学株式会社
 大阪市淀川区西中島4丁目5番1号 Tel.(06)6305-5871

—— 安全・人と自然・調和 ——

造林木を野生動物の食害から守る

〔野生獣類忌避剤〕 **コニファー水和剤** 〔幼令樹保護カバー〕 くわんたい
 〔樹皮食い防止に〕 **バークガード** 〔野生草食獣食害防止〕 **防獣ネット**
 〔クズ専用除草剤〕 **サイトロン・サイトロンフレノック・ケイピンエース**
 〔樹幹注入剤〕 **センチュリーエース** ★新発売★**マッケンジー注入剤**
 (お問い合わせ申し込みは県森連・森林組合へ)

販売元：口植アグリ株式会社 大同商事(株)大阪営業所
 TEL：086-292-5525 TEL：06-6231-2819



緑豊かな自然を守る

治山・林道事業の普及啓発、技術援助
 治山・林道の調査、測量、設計、積算
 森林整備・森林公園の総合計画

一般社団法人 岡山県森林協会

岡山市中区高屋 225-1 TEL 086-271-3711
 津山市二宮 1849-2 TEL 0868-28-9360

平成二十七年一月一日(第四三九号)
(隔月一日発行)

編集発行
〒700-8750 岡山県林政課内 岡山市北区内山下二一四一六

安心と信頼の証を届けます



創業以来、永年に渡り体育器具・遊具を製作してまいりました。地元メーカーとして責任ある製品作りに取り組み、安心と信頼を皆様にお届けします。

日本体操協会器械器具検定工場・日本公園施設業協会認定工場

OHKUBO 大久保体器株式会社

■本社 〒703-8214 岡山市東区鉄409 TEL (086) 279-0585 FAX (086) 279-0460
 ■倉敷営業所 〒710-0312 倉敷市藤戸町天城1021-1 TEL (086) 428-7576 FAX (086) 428-6153
 ■東京営業所 〒201-0003 東京都狛江市和泉本町1-21-1(201) TEL (03) 5761-9577 FAX (03) 5761-9587

木を通して環境保全に貢献しています



公園修景施設・土木用資材
防腐処理・ログハウス・デッキ

さんもく工業株式会社

〒702-8045 岡山市南区海岸通2丁目6番3号
TEL 086-262-0137(代) FAX 086-262-0130

日本植生は環境緑化技術を創造し、地球環境の保全に貢献します。

間伐材利用植生基材マット	間伐材利用植生マット	間伐材利用生分解型植生マット	間伐材利用生分解型植生シート	間伐材利用植生シート
グリーンフォーマット 〔切土軟岩用〕	森樹郎マット 〔切土土砂用〕	森樹郎マット21 〔切土土砂用〕	張りウッド 〔盛土用〕	ハリシバモック 〔盛土用〕



「岡山県エコ製品」の認定を受けた5品目
間伐材を有効利用した環境緑化資材です。

NETIS登録：CB-010046-A 間伐材利用植生マット工法「森樹郎(シンキロウ)マット工法」

太陽と緑の国づくり
Nikon 日本植生株式会社
http://www.nihon-shokusei.co.jp/
津山支店 / 津山市高尾 573-1 TEL (0868) 28-0256
岡山事務所 / 岡山市北区芳賀 5325 TEL (086) 294-1000

「緑の募金」ご協力をお願いします

緑の募金でふせごう地球温暖化

募金期間
春のみどりの月間
4月1日～5月31日
秋のみどりの月間
10月1日～10月31日

口座振込はこちらへ

ゆうちょ銀行	01270-0-5225
中国銀行岡山駅前支店	1852041
トマト銀行岡山駅前支店	1027972

寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。

公益社団法人 岡山県緑化推進協会
岡山市北区錦町1-8 TEL・FAX (086) 221-9511

【編集後記】
岡山県内において、昔から1月9日を「山の神の日」として崇め、その日は仕事を行わず祈禱をするところがあります。山の神に対して畏敬の念を込め、山での災害や事故のない1年になりますようお願いばかりです。(U)
昨年、木育に携わる機会が多く、改めて幼年期からの森林学習が重要だと感じた1年でした。今年も、引き続きがんばろうと思っています！(M)

事務局からのお知らせ
事務局では、会員の方からの紙面に対するご意見・ご要望やイベント情報等、身近な話題の投稿をお待ちしております。
また、新規会員も継続して募集しておりますので、よろしくお願ひいたします。お問い合わせ・送付先は次のとおりです。
送付先
〒700-8507
岡山市北区内山下2-4-6
岡山県庁林政課内 または
〒717-0013
真庭市勝山1884-2
森林研究所木材加工研究室内